

2020/4/1 No.83

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会

本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地

新しい建物の建築



理事長 木下 宣世

四月を迎え、新年度の歩みが始まりました。いかがお過ごしですか。いつも望みの門の働きをおぼえて祈り、支援して頂き心から感謝致します。

前年度を振り返りますと、何といっても去る九月の台風十五号と十九号の襲来を思い起こします。特に各施設とも風による被害がひどかったのですが、その中でも停電が一番こたえました。富津地区は四日間程度でしたが上総湊の諸施設は一週間も停電が続き、また、電気が止まると様々な不便や支障が生じ、思わぬところに影響が出たりしました。私たちの生活がどれ程電気に頼っているかを痛感させられた次第です。

しかし台風被害の方は職員の皆さんの一致した努力、利用者の方々の協力、外部からの助力によって乗り越えることができました。ところが年度末を控えた二月頃から新型コロナウイルスの問題が浮上してまいりました。これは今や世界中を巻き込む大問題となり、多くの人々に深刻な被害が及んでいます。望みの門諸施設でも何とか感染者を出さないよう対策を立て努力を重ねているところです。しかし、これで万全という手立てはありません。一日も早い終息を祈るばかりです。そういうわけで不安や混乱のある状況の中に新年度の歩みが始まったわけですが、望みの門にとって今年度最大の課題は新しい建物の

の建築であります。

この建物は「望みの門学園」や「デイサービス」、その他法人事務局、訪問看護、居宅介護等の働きのために用いられる予定です。

また、この建物の屋上は津波の時の避難場所として地域の方々にも利用していただけるようにと考えました。そのために四階建てとし、屋上の上さらにもう一段高く避難場所が設置されます。建築場所は「新生舎」の横、現在山林となっている所です。

しかし、この工事はかなりの難工事となりそうです。と言うのは地盤が軟弱なため、土台を支える柱をかなりの深さまで多数打ち込まなければならぬからです。願わくはこの工事が無事完成に至るよう祈っています。

そもそもこの工事は「望みの門学園」建て替えの為に補助金支給がきっかけとなりました。それではこれを機会にデイサービスや他の働きのためにもということでの現在の構想となったのです。この建築のための費用は約十億円となります。補助金と手持資金だけでは足りず、約五億円の借財を負うこととなりました。このためには大きな決断を要しました。

しかし、この建築が完成すればそれは当法人にとってシンボリック建物となるでしょう。神様がこの計画を祝福し、完成へと導いてくださるよう切に祈ります。そして皆様方の御加禱・御支援を頂ければまことに幸いです。



完成イメージ図

木下記念学園クリニックの開設

医務監 古関 啓二郎



二〇一九年十一月に木下記念学園クリニックをオープンしました。大変でした。大変でし

も知れませんが、心理的には大変でも実務面ではあまり負担はかかりませんでした。部屋は既に出来ていて、手を入れるまでもなかったからです。以前、そが西口クリニックなどを開業した際は、三十坪くらいのコンクリートの打ちっぱなしの部屋を区切る算段から始め、費用も一〇〇万円以上かかったと思います。

当院で費用がかかったのは、電子カルテでした。手書きカルテで始めようと思ったのですが、知り合いで電子カルテでないところはない、そういう時代になっており、また診療報酬の請求の仕方もわからない状態でしたので、やむなく電子カルテを導入することにしたのです。自動的に患者様の自己負担分もわかり、請求も簡単なようで現在まで保険請求などでトラブルはありません。

可愛い受付事務を行ってくれる人も来て頂

き、また、井本常務の計らいで盛大な開院記念パーティーも開いて頂きました(本当は嫌だったのですが)。嫌だったのは、私も七十歳にならんとしていて、通常、クリニックは五十歳までには開業するのが常識なので呆れられるだろうと思ったからです。しかしながら、尊敬する三枝一雄先生、三枝奈芳紀先生が励ましてくださり、その後お会いした富津医師会の先生方も歓迎してくださり、なんだからほっとした次第です。医師会の忘年会などにお招き頂き、近隣の先生方と顔見知りになったのは、とても嬉しいことでした。

さて、開業はしましたが、患者様はポツリポツリと少しずつ、来て頂いている状態です。今のところ、若い方が多く来られており、少し驚いています。幸い、皆様、少しずつ改善されています。

木下記念学園の子供も、少しずつ当院に転院しています。

注意欠陥多動性障害(ADHD)の改善薬を服用している子供が多いのですが、その薬は昨年十二月から処方医師の資格が厳しくなり、同時に服用患者様も登録制



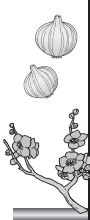
になりました。当院では、四月から処方できるようにになります。

さらに地域の福祉活動をされている方々にも徐々に知られて来たようで、声がかかるようになってきました。医師ひとり、受付事務ひとりの小さな診療所ですから、当院だけでは地域保健活動は何もできません。地域で活動される方の力を借り、お手伝いをしていきたいと考えています。

よろしくお願い申し上げます。

東京望みの門 自立援助ホーム マナの家

続く趣味



調理員 舌間 允子

趣味で染色を始めて四十年が過ぎました。あくまでも楽しみの域の中でのこと、拙い作品ばかりですが満足なのです。

ここ数年は絹物を離れ、望んでいた木綿に関わっています。綿を糸車で紡いで糸にし、染めて織るのです。よくその様に気の長いことを、と友人達に言われたものです。

染色は草木染めです。

綿には絹や羊毛と異なり、蛋白質が無く色の吸収が悪いので、呉汁処理という大豆の絞り汁に浸し、糸の表面に植物蛋白の膜をくっつけて発色定着を促します。

川原や里山に染料となる材料を集めに出ます。よもぎ、あかそ、こぶな草など。

身近な玉ネギの皮、紅茶、庭木の葉、藍は藍染専門店へと出掛けます。

化学染料で染めたものとは違い、落ち付いた優しい色合いに仕上がります。



予想していた色が出ない事も多々ありますし、染める度に微妙に色の違いがあるのも事実で、そのたびに複雑な自然界の不思議を思います。古代の色褪せた衣服や布から発せられるかすかな色あとに、先人達の生きた証を見る様で思いを駆り立てられます。

織りは高機たかばたという機を使っています。大きな機が少ない居住空間にデンと占めています。

整経たていとした経糸を機に掛けて、後は織るだけという状態にすれば、はた織りの九十パーセントは終わったとよく言われますが、大変でめんどろな作業です。

あと十パーセントは、よこ糸を打ち込んで織る単純な作業だけです。

平織り、組織おり、たて糸よこ糸の色の配

分など自分なりの試行で、織りあがる迄の胸の膨らみはたまらないものです。

織りあがった布は服や日常生活の彩りになっています。

今年はマナの家に飾られた桜の小枝をいただきました。

染める日を考えています。望む色が出てくれます様にと願いながら。



園長 田尻 隆

「ねえ園長、今度なりきり！ステークに連れて行ってよ」先日、ある利用者さんから受理しました要望です。これからの婦人保護事業は利用者の権利擁護を土台とするサービス提供に努めなくてはなりません。それにしてもこのふつふつと湧き上がる違和感はどうしたことでしょう……。そう「なりきって」どうする！彼女が行きたいのは「いきなり！ステーク」であるからです。

小学生の娘が兄たちの真似をして脱衣所から下着を脱ぎっぱなしにしていると母親から「女の子なんだからちゃんと片づけなさい！」と怒られてしまう理不尽さ。夕食に鯛の尾頭付きが上れば美味しいところは優先的に家長

である男性が食べることを美德としている世間の風潮。子どものお弁当を作る母親は「手作り信仰」にとらわれて自身の罪悪感を少しでも薄めるため朝早くから台所に立つ。何やら違和感がふつふつと湧き上がってきました。日本では大半の女性が結婚して名字を変えてしまいます。職場においてはなかなか重要な役職に就くことができません。誰かがおかしいと思っても、多くは無意識のうちに流されてしまうのです。そう日本はジェンダーギャップ指数一五三カ国中堂々の一二一位を叩き出した先進国と呼ばれる国なのです。

望みの門学園の皆さんは女性としての様々な生きづらさや差別によってつらい思いを経験されてきています。本当は当事者であるのに「みんな我慢しているから」と自身の問題を矮小化してしまい、人や社会を信頼することができずに孤立してきました。そんな皆さんには、今の生活を通しひとりぼっちで相談できる先がなく、つらさを抱え込むしかなかった想いを昇華させて欲しいと願っています。いよいよ新園舎工事が始まりました。何もない荒れ地に私たちの新しい住まいが建てられようとしています。「新しいぶどう酒は新しい革袋に」(マタイ9・17)この聖書の言葉は新しい時代にはそれまでの古いやり方ではなく、新しい時代に合致した発想や方法が必要だという意味で使われています。婦人保

護事業がその根拠法を「売春防止法」から新しい「女性自立支援法(仮)」に変えようとしている転換期(新しいぶどう酒)に私たちには新しい建物(新しい革袋)が与えられるのです。以前の宗教家たちは、自らの潔白さを保とうとするため罪人や徴税人に一切近づくことなく、更に一週間に二度断食をしていました。苦行を通して神に近付こうとしたのです。頑張って人間の力で必死に神に近付こうとするので、当然笑顔は消え暗く深刻な表情となっていました。しかしイエス・キリストの登場によって人々の暗く深刻な表情は笑顔へと変えられていくのです。

イエスさまは罪人や徴税人を積極的に訪ね共に食卓を開かれました。イエスさまは神の独り子がこの世にこられたのだから喜び祝う祝宴がふさわしいのであって、断食はふさわしくないということをお教えたのでした。

婦人保護事業もこれまでの「保護・更生」という暗く深刻なイメージから「伴走型支援」という新たなステージに歩みだ



新園舎予定地

そうとしています。そこには関係する人たちの笑顔があふれる新たな女性支援の姿があるのでしよう。これから建設される新園舎がそのような新しい女性支援の拠点として用いられますことをお祈り致します。

養護老人ホーム 望みの門楽生園

のぞみ会勤続二十一年目を迎えて

支援員 山本 朋美

今にして思うと学生の頃から福祉関係の職に就きたいという気持ちを中心にどこかの片隅に持っていた気がします。部活動(剣道部)が一区切りした高三の夏休みにバイトをするかボランティアをするかで悩んだとき、東京郊外にある医療系の重度心身障害児施設のボランティアに参加することを選択したのもそういう気持ちからだったのだと思います。もうウン十年も前の体験になりますが何の知識も待たない高校生の無謀な申し出を快く受けてくださったことは今でも感謝です。

施設の寮にお世話になり住み込みで二週間、私はボランティアとして一階の通所や短期入所利用されている比較的軽度な心身障害児(小児)の担当となり遊びのお相手や食事やお昼寝の見守りをお手伝いしました。素直で感情表現が豊かで笑顔が可愛らしくて…二

週間ずっと「こんなに楽しくていいのかしら」と感じてしまうほどでした。ボランティア生活三日目、一日のお役目が終わったあと初めて二階に連れて行って頂きました。

二階は人工呼吸器や経管栄養などの手厚い医療ケアが必要な重症度の高い利用者様が入所されており私はその日から寮に帰る前必ず二階に寄るのが日課になりました。ある日いつものようにご挨拶をして寮に戻ろうとしたとき職員さんから「来てくれるのが嬉しいみたい。すごく喜んでる!」と言われました。私にはその時の利用者さんの表情の変化など到底読み取ることは出来ませんでした。「何にも解らないように見えて何でも解ってるの」「だから声掛けしてとても大事だし、気を配ってるのよ」と教えて下さいました。

この高三の夏の貴重な経験は私が社会福祉に触れた第一歩であり原点であった確信があります。今、念願かなって福祉の仕事に携わり今年で「のぞみ会勤続二十一年目」を迎え現在は楽生園で支援員として日々業務にあたっています。まだまだ気を配らなければならぬこと、経験を積み重ねなければならぬことが山積みですがこれからも福祉サービ



特別養護老人ホーム 望みの門紫苑荘 利用者様と共に



介護員 戸倉 芳江

四月を迎え暖かくなり、門の入り口や花壇に季節の花々が咲き誇り心を和ませてくれる季節となりました。紫苑荘の二階・三階の窓からは二〇一一年十月に植樹された記念樹が雨風に負けずしっかりと根付き成長をしている様子が見えます。

昨年は自然災害に見舞われ停電・断水となり残暑の中職員一同利用者様のこまめな水分補給に努め、身体を濡らしたタオルで冷やしたり、うちわで仰いだりして体調管理に努めました。利用者様も「生まれてこのかた、こんなことは初めてだ」と話されておりました。日常当たり前に生活していることに感謝し、良き教訓となりました。

現在紫苑荘では、一〇一歳が一名・九十歳代が二十名以上。五十代から一〇〇歳以上の方々の支援をさせて頂いております。平均寿命が延びている今日、私達介護員は毎日利用者様の食事介助・入浴介助・排泄介助・



配茶・おやつ介助・移乗介助等を行っております。利用者様の性格も十人十色で、明るい方、朗らかな方、お喋り好きな方、柔和な方等色々な利用者様がいらっしゃいます。日々の生活の支援をさせて頂いている中で、様々な利用者様と関わっている内に皆様から色々な事を学ばせて頂いております。一日の生活の中で食事・おやつ時間が一番の楽しみだとおっしゃっている方が多くいらっしゃいます。そして毎月行っている「喫茶シオン」ですが、特に人気が焼き芋・手作りケーキ・ドリンクバイキング等です。普段より利用者様の会話が增え、笑顔が沢山見受けられております。今年度は、利用者様の趣向を伺いながらおやつメニューを増やし、利用者様と一緒に作ったりしていこうと考えております。又、天候の良い時には散歩や外出をして季節感のある日常生活と笑顔が溢れる楽しみの場を、これからも少しでも多く提供し利用者様の満足度アップを目指せるように努めたいと思います。

特別養護老人ホーム 望みの門富士見の里

笑顔で元気なユニットを目指して

介護員 平野 幸子

私は今、望みの門富士見の里の和ユニットを担当させて頂いています。和ユニットは現在

男性四名女性六名の方が入居されています。特に女性の方はお元気で話がはずんで楽しく過ごされています。

入居者の方でダウン症の方が入居され、毎日元気な声で入居者様や職員に「おはよう」「今来たの?」「大丈夫?」と温かい言葉をかけて下さいます。また、毎日ラジオ体操に参加され頑張っている姿が伝わっています。入居者様皆様とコミュニケーションされ職員にも元気を分けていただけてとても励まされています。他の入居者様もリハビリ指導されて頑張っています。



今は新型コロナウイルス、インフルエンザ感染症対策にて面会など制限され入居者様、ご家族の方には大変不自由な事と思います。今現在、新型コロナウイルス感染者は、約千人以上の方が感染している状況で、千葉県でも増加傾向です。これ以上感染がひろがらないよう自分が保菌者だと思いながら、入居者様には徹底した手洗い、うがい、手指消毒を行っていただいています。入居者様の体調の変化にも普段以上に気を配り、毎日様子を見

て医務に報告して対応しています。また暖かくなり落ち着いたら、美味しい昼食を食べに行ったり、お買い物遠足に行ったり、皆様が笑顔で喜んでご参加いただけるように職員で話し合い計画して行きたいと思っています。

老人デイサービス事業 望みの門デイサービスセンター 管理者として何ができる？

施設長 白鳥 正道

のぞみ会は二年後創立六十周年を迎える。私自身法人にお世話になり二十六年目を迎えた。その間多くのことを学んだ。立場による責任範囲の変化も経験し、人それぞれ利用者、職員に対する考え方の違いも見えてきた。それらが今の自分の指針になっている。異動を重ねるにつれ今まで感じなかった疑問を持ち、自分の仕事について考え、法人の理念や事業所設立趣意の理解が不可欠となり、異動先で自分のなすべきことを見つけないければ管理職として自分の存在価値がないと考えるにいたった。役職が上がればそれだけ権限を与えられ負う責任は広く重くなる。それをいかに行使し、責任を果たすかが自分に与えられた試練である。

事業所の役割は法律と制度を理解することでおおかた問題ない。制度改定への対応は情

報収集と分析により目的、目標の整理と、自施設でどう実現されるかの具体的方策を計画的に進めていくこと。

しかし管理者としてどうすべきか、何が仕事なのかは誰も教えてはくれない。最近読んだ本に大きな刺激を受け、どうしようもなく自分の中に葛藤を抱えている。役職が上がることで、部下が増えることについて基本的に興味はない。むしろ自分のことだけで済まなくなるので今でも可能なら遠慮したいと願っている。自分自身一般的に考えて能力が高くもなく、違う人ならもっといい解決方法を導き出すことも可能ではないかと思うことも多い。ただ、現在管理者を任されている以上やることはやらなければいけない。わからなければ学ばばいいし、自信がなければみんなの意見を聞けばいい。目の前の小事に振り回されることなく将来を見据えて一人ひとりが考えられる職場にするのが理想だ。

管理者は職員がいかに働きやすい環境を整えられるか、思ったことや疑問をざっくりばらんに発言できる風通しのいい風土、サービスの質や待遇改善など改善提案についてもレスポンスの早さも職場には大切だ。理想を語ることも管理者には必要なことで先を見ない管理者に何を期待できるだろうか。まだやれることはたくさんある。人を変えることはできない、ただ自分が変わることだけだ。

就労継続支援事業 望みの門 新生舎 利用者の姿から学ぶもの



職業支援員 貞徳 麻希

昨年四月に新生舎に異動し、初めての作業支援に就き慣れないことに四苦八苦しなながら一年が過ぎました。そんな中で去る二月二十一日から三日間に渡り、「手をつなぐ作品展」が開催され、新生舎では今年も出展の機会を頂きました。お馴染みのパンやクッキー、手芸品を始め、ロールケーキやお菓子の詰め合わせなど色々な作品を販売しました。作品展など外部で販売する機会は昨年もありましたが、今回は三日間と年度内で唯一の連日販売で、加えて期間中に他の作品展への出展が予定されていたこともあり、慌ただしい雰囲気の中当日を迎えることとなりました。作品展の中日である二十二日は新生舎はお休みでしたが、一部の利用者様には今年も休日出勤をお願いしました。利用者様の出勤前に追加の搬入を行って帰ってくると利用者様はすでに仕事を始めていました！慣れている利用者様はキビキビと働いており、新生舎一年目の職員である私にはとても頼もしく映りました。また、他の作品展への出展予定はこの日だったので、今般の新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止となってしまうし

た。そこで前日から仕込んでいたパンをどうするかといった問題が浮上したのですが、頼れるベーカーリーの職業支援係長の判断により、法人内施設へ販売に伺うこととなりました。その際に同行した利用者様は張り切ったサポートをしてくれ、お陰で市役所販売での売上げと同等の売上げを得ることができました！ご購入、ご協力頂いた皆様、ありがとうございます。

私は色々な作品展や販売に行く中で、自分の足りないことを身に付けるために努力をしたり、自分の出来ることでカバーしようとする利用者様の頑張る姿を見ることで、とても勇気づけられます。それは日々の作業の中で職員の声かけを始めとする支援が積み重なっていった結果、本人の意欲に繋がりが、こういった場で発揮されているのではないかと感じます。しかし、そうではない結果となることも多く、支援の難しさを痛感しています。利用者様にとってよりよい結果となるように支援の重要性を肝に銘じ、利用者様と共に私自身も成長するために努力していきたいと思えます。



共同生活援助事業 グレースホーム

『感謝』〜ありがとう〜

施設長 白鳥 尋子

長年の高齢者の仕事から障がいの仕事に携わり二年、未だに介護と支援（指導）との違いに困惑・葛藤の日々の私と、感染症のニュースが飛びかう中、ばい菌も寄せ付けないほどの元気なパワーで生活する二十名の入所者。その間で入所者の事を一番に考え、入居者以上にパワフルなスタッフ九名。皆が健康で安全に暮らせるのも世話人兼生活支援員として働くスタッフのおかげです。

平均年齢六十七・五歳！

少々お高目ではありますが、グループホームの仕事は子育てを経験しているからこそできる仕事。家政婦と違い家事仕事の他に、入所者の個々の観察・精神安定のためのコミュニケーション・生活面全般や一般常識の指導等範囲が幅広い仕事です。年齢も障がいの重さも皆違う入所者。同じことを毎日繰り返し言わなくてはいけない日もあれば、突然の発作の対応、いつもワイワイ！ニコニコではいられないはずなのに…。

入居者が自立した生活が出来るよう、優しいさ・誠実さが身につくよう、一人一人が心身共に少しでも向上できるように支援していか

なくてはいけない難しい仕事を、グレースホームのスタッフは嫌な顔をせず対応して下さる姿に毎日頭が下がります。

施設長でありながら一番年下の私。子育て同様教えて頂く事も多々あり、日々自身の葛藤の中、スタッフに恵まれていることをとても感謝しております。

法人は利用者がいないと成り立たず、その利用者を介護・支援する現場のスタッフがいなければ成り立ちません。

利用者は勿論スタッフを守るのも施設長の役目。そう思えるのは介護職の頃の当時の二名の施設長から仕事を通して感じ得た事。

グレースホームの入所者と今の私にとって大切な九名のスタッフ。目標に向かい一緒に頑張って下さることに感謝します。

〜いつも

ありがとうございます〜



地域活動支援センター 望みの門ヨカデイサービスセンター

ヨカデイでのあゆみ



介護員 倉本 幸一

ヨカデイサービスセンターが出来て約十六年になります。最初の頃は利用者さんの平均年齢が六十代以下でした。今は七十代を超え

て高齢者になって来ました。最初の頃は身体も動きが良く声もでていました。年齢が高くなるにつれ、動きが悪くなってきています。利用者さんは外に出るのを楽しみにしています。その為には、出来るだけ自然に身体を動かす事、歩く事を、私たちは考え支援しています。出来るだけ強制しないで、見守りながら日中活動を支援しています。利用者さん達が楽しく過ごせれば良いのですが、利用者さんが少なくなった為一人一人の行動が目にく様でトラブルが絶えません。私たちは、出来るだけトラブルが起きても冷静な対応をして利用者さん達が不機嫌にならない様にと考えながら対応しています。思う様には中々いきません。ただ、ケガや事故につながる事が無い様にと注意をしています。職員二人で、どうすればトラブルが無く、一日楽しく過ごしてもらえるかと考えていますが中々利用者さんが喜べることを提供出来なく苦労しています。声を出したり、歌うことで、事が忘れ



られるようになって来ている様です。和やかな生活が少しずつですが送れる様になってきました。

四月度より新しい年度が始まりますが去年は災害の多い年でした。満足に予定通りに活動ができず利用者さんには大変な思いをさせました。室内で出来る行事を行いました。不機嫌な顔を見せる部分もありカラオケをしたり貼り絵をしたりして楽しく過ごせる様にしました。不機嫌な気持ちになったら大声で歌う事で和やかに過ごすが出来る事を利用者さんから教えてもらいました。これからも楽しく過ごせる支援を心がけて行きたいと思っています。

これからも元気でヨカデイに来てもらい歌って楽しい時間をみなさんと過ごしていきたいと思っています。

千葉県中核地域生活支援センター 君津ふくしネット 君津ふくしネットにて伴走を考える

相談支援員 佐京 正範

昨年度十月一日付で現職の辞令を拝命しました。理解が乏しいまま後発スタートした形ですが、知るほどに、知らなきゃできないことに気づいていく支援業務だと感じていきます。わからないことが判らない状態で進んで

いたところ、伴走型支援士の認定講座を受け、進むべき標を得ました。これをお伝えします。

君津ふくしネットに寄せられる相談の多くが、現行制度に引っかかるから困窮ケースです。いわゆる「狭間」にいる人たち。行政窓口へ相談に行くと、あれやこれを提出、何々課へ行き確認してくださいなど、複雑に細分化された制度の知識がない私のような人は、冷汗をかきながら窓口を巡ることになります。

困窮当事者からすると自分が置かれている要因を説明できる知識もなく、何よりも問題なのは、一人の中に多様な困窮要因が存在していることが殆どで、一つの専門窓口で事足りることは滅多にないという現実があります。それでも窓口へ行ける方は、アクション次第でヘルプアシストが可能になる場合があります。このご本人の意思が有るか無いかによって動き出すものが大きく変わります。

伴走型支援士の講座内で語られた事例として、市からホームレス支援の要請があり関りを開始したケース。会いに行き生活保護を提案したが追い返される。ホームレスを続けるという。何度行っても同じ。しかし最初の、もう来るなという返答から次第に世間話もできるように。水や弁当を届けつつ生死の見守りが、鉄アルミの暴落で生計不全に。ご本人から初めてヘルプコールがあった。繋がりを続

け十一年目だった。

もう一事例。同じ

くホームレス支援の

要請ケース。生活保

護を受けさせようと

アパートを探し、保

証人問題もクリア

し、目出度く「自立」

の基盤を整えた。暫

くすると仕事も辞

め、アパートはゴミ屋敷と化しご本人は不在。

再びホームレスになっていた。再度のアセス

メントから判ったことは、ご本人が願っていた希望

していたことは、温かい布団や食事ではなく

“人”だった。“孤立”から逃げたかった。“自

立”が“孤立”に終わっていた事例。

制度の外にいる方たちの支援は、何とか幸

せにしてあげたいという福祉的お節介からご

本人の気持ちに沿わないまま、決めつけて進む

ことがあり得ます。これを整えれば幸せにな

るだろうという決めつけです。事例のように、

困窮者支援は「経済的困窮」と「社会的孤立」

の二つのテーマが存在します。困窮、孤立を

脱する提案をしても拒否し、ホームレスを続

けることが希望であれば、“気づく”まで“死



ある母子家庭の児童ケースに食事を聞くと、毎日コンビニ弁当との答えでしたが、嬉しそうに母親と一緒に食べたことを教えてくれました。母は仕事掛け持ちで借金返済をしています。食事を作る時間もなく。夕食のみが家族の団らんです。外野から見れば、栄養が偏っているのではと邪推が入るところですが、何を食べたかではなく誰と食べたか。この子はそれを物語として刻み大人になることが出来るはずです。人と人が繋がるとは胸に刻まれる体験が必要で、赤の他人が当事者の中に入り込むには伴走し続けるしかない。私の伴走支援は未だ始まったばかりです。

富津市富津地区地域包括支援センター 富津市いきいき百歳体操

看護師 井上 昭子

高齢者が介護認定を受ける原因の多くは、認知症や転倒による怪我・入院・閉じこもりによる筋力低下等になります。

第一次ベビーブームの団塊世代が七十五歳になる二〇二五年には超高齢化社会を迎え、社会的にも深刻な問題です。国は早期から様々な対策を検討しており、特に認知症対策と介護予防事業においては重要課題として挙げています。

認知症は今後増え続けると見込まれ、五年後の二〇二五年には四人に一人が認知症と見込まれています。富津市では認知症初期集中支援チームを設置して通院支援や相談窓口として多職種連携で支援にあたっています。また、認知症と同時に心配されるのが要介護認定者の増加で、より一層介護保険の圧迫が予想されることから、富津市では日三十三年度に『富津市いきいき百歳体操』と題した介護予防事業を開始しました。これは日十四年に高知市が考案した筋力体操で、おもりを手や足に付け負荷を加えながら動かす、誰にでも簡単にできる運動です。立つ歩く持ち上げるなど、日常生活に最低限必要な動作に使う筋肉を鍛える運動です。

高齢者の筋肉維持向上に成果が期待できるとして、他県でも注目され全国で広く知られることとなりました。富津市でも高知市の許可を得てこの運動を推奨する事となり、希望者が集まり、個人の能力に合わせておもりを増減しながら三十分程度の運動を行い、健康寿命を延ばす事を目的に多くの高齢者が意欲的に取組んでいます。



包括の看護師は会場に伺い、やり方の説明や定期的な体力測定を行い、その効果を評価して参加者にフィードバックしています。

この運動を一年続けた結果、参加者のK様から「毎年訪れる善光寺で今まで途中で何回も休みながら昇っていた千段の階段を、一回も休みず昇れるようになりました」と改めて成果が見える報告を受けることができました。

児童養護施設 望みの門かずさの里

保育士 寺島 裕子

一年前に前職の任期を終え、望みの門に入職しかずさの里でお世話になることになりました。子どもたちの施設はどんな感じなのか、どれだけお役に立っているのか、就く直前まで不安を募らせていました。学童ユニットにて子どもたちと顔合わせの際、どんな人が来るのかと、どの子も物珍しく覗き込みながら、キラキラ輝かせていた小さな眼がとても印象的でした。里には親と死別している子どもは少ないと聞きましたが、この暮らしに至るまでに、その両親等から虐待・ネグレクトを受け、愛着障害などを抱え、笑顔の奥底に計り知れない思いがあることを、まず思い知らされました。痛く・寒く・冷たく・苦しく・淋しく辛

い体験を重ね、様々な状況を背負い、親と離ればなれとなり暮らす子どもたちの心を思うと、改めてこの仕事の重さを痛感します。

私が寄り添うユニットは、ほとんどの子が発達、また知的の障害等を抱え、特別支援学級に通っています。この子どもたちの遅れや障害に目を向けると、その多くの親御さんと同様ハンディを抱えているようです。育てる側、育つ側ともにハンディキャップを抱えた家庭は、これからも増えていくと言われています。

昨年の野田市の小四女児虐待死事件へ適切に保護されていたら、今頃この里の地に居たかもしれないと、ニュースを見るたびに痛々しく思います。適切に保護して安心・安全に育み、「守られて良かったな!この大切な命」の思いを強く持ち子どもと接していく中で、一つの命の尊さが極められ語られると思います。

さて、ユニットの一番年上日さんは、今日も気持ち荒れ気味にて大きな声でストレス発散(癩癪)、私物散乱。Sさんは帰



省前に必ず里の献立メニューをチェック、「あ〜キムチ鍋食べたかったのに!」と不機嫌。Kさん「ねえ〜ねえ〜今日も友達できたよ!」と報告。もう一人のKさん「ここ来て、こっち来て、これ持って、これやって、これ歌って」の連発。Mさん「私が書いて贈った誕生日カードの〜いっぱい勉強していっぱい遊ぼうのお願いに〜まだ遊んでくれない!・・・約束違反」と怒り顔。一番年下のMさんは寝かしつけにて「最初はどんな感じの人かな?と思ったけど・・会えて良かったよ」と言いながら寝つく。

日常の一コマですが、少しずつ受け入れてくれているのかなと思うこの頃です。こんな毎日から、いつも柔軟な気持ちで、両手を広げ、この子どもたちの生活を大切に育んでいきたいと切に思っています。

乳児院 望みの門方舟乳児園

令和初めての新年度挨拶

施設長 井本 義樹

昨年度中は多くの災害に見舞われましたが、皆様からお力添えいただけしたこと、同時に当職員の子どもたちに対する深い想いのおかげで、令和初の春を無事に迎えることができましたこと、この場をお借りして深く感謝

申し上げます。ありがとうございました。

さて、年度の初めのご挨拶にあまり相応しくない話題かも知れませんが、昨年度の児童相談所相談件数は過去最多、約一六万件となりました。年々相談件数は増加の一途をたどり、その対応はなかなか追いつかない現状、ほぼ毎日なんらかのメディア媒体で、児童虐待に関する報道がなされているように感じます。最近ではドラマの内容として、DVと児童虐待が話題になることも多くなっており、より身近な話題となってきました。社会の関心が、社会的弱者である被虐者、福祉の力が必要とする人達に集まることで、社会福祉活動が充実されることを喜ぶ半面、先程述べたように、対応が追いついていない現実には直面させられ、社会福祉活動を担う者の一人として無力感を抱いてしまうこともあります。

現在昨年度の当園入退所者データのまとめを作成しているため、一昨年のデータになりますが、平成三十年度当園で一時保護委託を受けた児童は十三名（前年度からの継続者は除く）、うちそのまま入所となった児は二名、年度越え継続児一名、家庭復帰児は十名（きょうだいケースも含む）、一人当たりの平均在所日数は三十七日でした。この平均在所日数三十七日、保護期間の長さが妥当かどうかは別としますが、一時保護児童の入所期間は措置入所児よりも圧倒的に短い入所期間となっ

ています。すなわち本来帰属している家庭からの分離期間は短く、分離期間が短いことは、児の成長発達に不利な影響を大きく与えないことにつながると考えられます。

措置入所し、施設での集団生活を余儀なくされている入所児童には、当園が一人でも多くの一時保護児童を受け入れることで安定した生活の提供が脅かされることがあること、職員にとっても安定した勤務体制の継続、運営をするために今まで以上の努力を強いることになるので大変申し訳ないのですが、そのおかげで一時保護した児童十三名中十名が安定した生活環境を確保できたと思っています。

これからますます一時保護を必要とする児童は増えていくと予想されますが、一日も早く子どもが子どもとして生活できる環境を、職員一丸となって模索していきたいと考えています。本年度も昨年同様に皆様からのお力添えをいただけると幸いに存じます。どうぞ宜しくお願い致します。

つながること



児童家庭支援センター 望みの門ピーターパンの家

管理者 井本 千鶴

昨年度は、今までない大きな台風に見舞われ、いまだに大変なご苦勞をしている方も

たくさんいらっしゃると思います。また年明けからは新型コロナウイルスが猛威を振るい、様々な影響が出ています。一日も早い収束を願うばかりですが、そんな中でもお互いに声を掛け合うことで、心強く、前を向いていこうと思えます。ピーターパンの家でも、昨年度は特につながりの大切さを感じる一年でした。

昨春から富津市役所出張所が開設できたことで、今まで以上に地域の子育て家庭とつながることができました。新たな出会いに恵まれたことをとても嬉しく思っています。また市役所の職員の方々はもちろん、市役所に来られる関係機関の方々とのつながりも、大変密になり、日々の活動の大きな支えとなっています。また昨秋には、法人内に木下記念学園クリニックが開院し、専門の医師との密なつながりを持つこともできるようになりました。発達面や精神面に心配がある利用者の方も、より安心して、ご利用いただけるようになりました。

私たちピーターパンの家は、子育て家族と「つながること」がとても大切であると考えています。子育てはとても尊く、でも同時にとても忍耐の必要なことであると思います。子育て家族には、多くのサポートが必要です。そのサポートの一端を私たちが担うことができればと願っています。どんな時も声を掛け合い、つながれるセンターでありたいと思っ

ています。嬉しいことも、大変なことも、何でもお話しください。今年度も地域の皆様とのつながりを大切に活動していきたいと思っています。どうぞお気軽にご利用ください。



児童心理治療施設 望みの門木下記念学園

自然の力を借りながら

心理相談員 東村 通祐

木下記念学園の建物のイメージカラーをご存じでしょうか？オレンジ、青、緑の三色で、この地区の豊かな自然である太陽、自然、海をイメージしているようです。当園は目と鼻の先に海があり、グラウンドから見える海と夕焼けの景色は非常に綺麗です。

私自身は、豊かな自然で癒やしてもらうことがあります。例えば、私は趣味で釣りをしており、仕事で疲れたとき、上手いかず悩んでいるとき、何かよく分からないけれどスッキリしたとき……そんな時は仕事終わりにすぐ近くにある海に行きます。大きな海に向かって竿を出し、ぼんやりと考え事をし

ながらのんびりしていると、小さな悩みや疲れも吹き飛び心に余裕が生まれます。対人援助職をする上で、心に余裕が生まれると子ども達とも余裕を持って関わる事ができます。そして余裕を持って関わることで、子ども達からの時に激しい表現にも心は熱く頭は冷静に対応する事ができます。ある意味で、この地の自然の力を借りながら働いているともいえるのでしょうか。

子ども達に目を向けると、行事として山にキャンプに行ったり、海に釣りに行ったこともあります。はたまた海水浴へ行ったこともあります。キャンプに行くとき普段の子ども達の生活の様子からは想像できない程に皆で協力して乗り越えていく姿があります。釣りをしていると、しばらく釣れていないにも関わらず諦めることなく色々工夫している姿が見られます。海水浴では、泳ぐことが苦手な子、水に入るのが苦手な子、そのような子ども達も少しずつ海に入り、しばらくくすると誰よりも楽しんでいる姿も見られました。



そのような体験をしながら子ども達は成長するのではないのでしょうか。

このように富津の豊かな自然の力を借りながら、仕事もプライベートも楽しみな暮らしをしています。今後も子ども達にもその力を還元する事が出来れば良いと思います。

編集後記

「梅は咲いたか桜はまだかいな」と思っていたが、明日からは四月なみの気温になるとテレビは伝え、早いところでは桜も咲いているらしい。しかしなんとも早や、花見の集いも宴も自粛とは嘆かわしい次第である。人目に見えるものは信じるが、目に見えないものには言い知れぬ不安と恐れを抱く。しかし私たちの目に見えるものは森羅万象のごく限られたほんの一部分ということは中学生ならば十分理解されることである。

人の目には生きるのに不可欠な空気も有害な病原菌もキャッチできない。新年度のスタートは木下理事長の巻頭言にあるように、最大の課題は望みの門学園等の新築移転である。新型コロナウイルスの流行をものともせず、新館建設工事の目に見える事業を推進することは、法人設立六十周年記念を二年後に控えた一大イベントである。

(Y・I)